

2021.2.11近畿大学:日本史

大門1

問1:④

問2:②

問3:②

問4:③

問5:③

問6:③

問7:③

問8:④

問9:①

問10:②

問1:室町・戦国期の政治情勢

解答:④(ア＝足利義政、イ＝足利義昭)

[ア] 足利義政(8代将軍)

1460年当時、室町幕府の将軍は足利義政であった。この時期、河内・紀伊などの守護であった畠山氏では、畠山義就(よしなり)と畠山政長(まさなが)による家督争いが激化していた。

義政は当初、義就を支持していたが、後に政長を支持するなど、優柔不断な態度をとった。1460年に義政が政長を家督と認めたことで、義就は没落し若江城へ逃れた。これが後の応仁の乱(1467年～)における東軍(政長側)と西軍(義就側)の対立構造の火種となった。

[イ] 足利義昭(15代将軍)

1573年、織田信長と対立した将軍・足利義昭は、挙兵するも敗れ、京都を追放された。これにより室町幕府は実質的に滅亡したとされる。

追放された義昭を、当時若江城を拠点としていた三好義継(みよしよしつぐ)が迎え入れた。しかし、信長の攻撃を受け、義継は自害、若江城は信長の支配下となった。

問2:弥生時代の墓制

解答:②(木棺・箱式石棺・甕棺などが用いられた)

・弥生時代の墓制の特徴:

弥生時代は、縄文時代の屈葬(体を丸めて葬る)に対し、手足を伸ばして葬る伸展葬が一般的になった。

・木棺墓(もっかんぼ): 木の板で作った棺。

・箱式石棺墓(はこしきせっかんぼ): 板石を箱型に組み合わせて作った棺。

・甕棺墓(かめかんぼ): 大型の日用品の甕(かめ)を棺としたもの。特に北九州地方で盛んに作られた。

・誤答の選択肢解説:

・① 群集墳や横穴式石室は、古墳時代後期(6世紀以降)の特徴である。

・③ 転換の向きが逆である。縄文時代の「屈葬」から弥生時代の「伸展葬」へと転換した。

・④ 再葬墓(一度埋葬して白骨化した後、土器に詰め直して再び埋葬する)は、主に縄文時代晚期から弥生時代前期にかけて、東日本で流行した墓制である。

問3: 延暦寺(天台宗)の歴史

解答:②(最澄の悲願であった大乘戒壇が設立された)

・大乘戒壇(だいじょうかいだん)の設立:

平安時代初期、最澄は天台宗の僧侶を独自に養成するため、東大寺(小乗戒壇)から独立した「大乘戒壇」の設立を求めた。既存の奈良仏教勢力はこれに猛反対したが、最澄の没後わずか7日目の822年に許可が下り、延暦寺は制度的に独立した地位を確立した。

・誤答の選択肢解説:

・① 延暦寺は「北嶺(ほくれい)」と呼ばれる。これに対し、興福寺(奈良)は「南都(なんと)」と呼ばれる。

・③ 円珍の門流は寺門派(じもんは・園城寺を拠点)である。一方、円仁の門流が山門派(さんもんは・延暦寺を拠点)であり、両者は激しく対立した。

・④ 不動明王像(黄不動)は寺門派の拠点である**園城寺(三井寺)**に伝わる秘仏である。

問4:『延喜式』の編纂

解答:③(醍醐天皇)

- 三代格式(さんだいきやくしき):

平安時代、律令を補足・修正するために「格(きやく)」と「式(しき)」が編纂された。

- 1.『弘仁格式』(嵯峨天皇)
- 2.『貞観格式』(清和天皇)
- 3.『延喜格式』(醍醐天皇)

- 醍醐天皇の治世:

905年に編纂が命じられた『延喜式』は、律令の施行細則をまとめた集大成であり、当時の政治・社会制度を知るための極めて重要な史料となっている。

問5:室町時代の守護の権限

解答:③(臨時の一国平均役である段銭は、守護を通じて試課された)

- 段銭(たんせん)の徴収:

室町幕府は、即位儀式や内裏の修理などの際、土地(段数)に応じて一斉に課税する「段銭」などの一国平均役を課した。この徴収実務を担当したのが各国の守護であり、彼らはこの権限を利用して国内の武士(国人)に対する支配力を強めていった。

- 誤答の選択肢解説:

- ① 御料所(将軍直轄領)の管理を委ねられたのは、主に将軍の近臣である奉公衆(ほうこうしゅう)である。
- ② 下地中分(土地の物理的分割)は、鎌倉時代から南北朝時代にかけて、地頭と領主の紛争解決のために行われた。
- ④ 選択肢の内容は「半済(はんぜい)」と「使節遵行(しせつじゅんこう)」の混同である。半済は荘園年貢の半分を軍費として徴収する権限。使節遵行は幕府の裁判判決を現地で強制執行する権限である。これらは守護の権限拡大の象徴だが、記述が不適切である。

問6:応仁の乱(1467年)以前の出来事

解答:③(コシャマインの戦い)

- コシャマインの戦い(1457年):

和人(本州からの移住者)の圧迫に対し、アイヌの首長コシャマインが蜂起した事件である。武田信広(松前氏の祖)らによって鎮圧された。これは応仁の乱(1467年)より10年前の出来事である。

・誤答の選択肢解説:

・① 加賀の一向一揆(1488年): 富樫政親を自刃させ、以後約1世紀にわたって「百姓の持ちたる国」を実現した。

・② 山城の国一揆(1485年): 畠山氏の両軍を国外へ追放し、8年間にわたり国人らによる自治を行った。

・④ 三浦の乱(1510年): 朝鮮の三浦(さんぽ)に住む日本人が、朝鮮側の圧迫に対して起こした反乱である。

問7: 室町幕府滅亡(1573年)以前の出来事

解答: ③(比叡山焼き討ち)

・比叡山焼き討ち(1571年):

織田信長が、対立する浅井・朝倉氏を庇護していた延暦寺を攻撃した事件である。信長が足利義昭を京都から追放(1573年)する2年前の出来事である。

・誤答の選択肢解説:

・① 伊勢長島の一向け平定(1574年): 信長が長島願証寺を焼き払い、多くの門徒を殺害した。

・② 越前一向け平定の平定(1575年): 信長が朝倉氏滅亡後に一揆勢が支配していた越前を制圧した。

・④ 長篠の合戦(1575年): 織田・徳川連合軍が武田勝頼の騎馬軍団を鉄砲隊で破った戦いである。

問8: 石山本願寺攻め

解答: ④(豊臣秀吉は、石山本願寺の跡地に大阪城を築いた)

・石山本願寺と大阪城:

1580年に11年にわたる信長との戦いに敗れた顕如が退去した後、その跡地は信長的手中に落ちた。信長の死後、実権を握った豊臣秀吉は、その交通の要所である石山本願寺跡を利用して大阪城を築城した。これが正解である。

・誤答の選択肢解説:

・① 顕如が全国の門徒に信長打倒を呼びかけたのは、信長が義昭を奉じて入京した後、両者の関係が悪化した1570年(石山合戦の開始)である。

- ・② 顕如が正親町天皇の仲介で信長と講和したのは1580年である。武田勝頼の自害(1582年)よりも前である。
- ・③ 本願寺は廃絶しておらず、後に秀吉から土地を寄進されるなどして再興し、さらに徳川家康の時代に東西に分立(西本願寺・東本願寺)した。

問9: キリスト教宣教師の活動

解答: ①(ザビエルは、山口の大内義隆や豊後の大友義鎮らの保護を受けた)

・ザビエルの活動:

1549年に鹿児島に来着したフランシスコ＝ザビエルは、平戸を経て山口の大内義隆に謁見し、布教の許可を得た。さらに豊後の大友義鎮(宗麟)とも接触し、九州・中国地方での布教の基盤を作った。

・誤答の選択肢解説:

- ・② ガスパル＝ヴィレラが「ベニス(ヴェネツィア)のように、富裕な商人が自治を行っている」と報告したのは、博多ではなく堺である。
- ・③ 活字印刷術(キリシタン版)を日本にもたらしたのは、宣教師ヴィレラではなく、巡察使ヴァリニャーノである。
- ・④ 天正遣欧少年使節は、パテレン追放令が出された後ではあるが、1590年に無事に帰国し、秀吉に謁見している。

問10: 1615年の制定法

解答: ②(諸国の居城修補の制限を定めた武家諸法度)

・武家諸法度(元和令):

1615年、大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼした徳川幕府(2代秀忠の代)が、大名統制のために制定したのが武家諸法度である。

選択肢②の「諸国ノ居城修補ヲ為ス、必ズ言上スベシ(お城を修理するときには必ず届け出よ)」という文言は、同法の有名な一節である。同時に「一国一城令」も出され、軍事力の制限が徹底された。

・誤答の選択肢解説:

- ・① 田畑永代売買禁止令: 1643年、3代将軍家光の時代に農民の没落を防ぐ目的で出された。
- ・③ 外国船の寄港地制限: イギリス・オランダ船の寄港地を平戸・長崎の2港に限定したのは1616年である。

- ④ 日本人の海外渡航・帰国の禁止:いわゆる「鎖国」の完成期である1635年の法令(寛永令)である。

大門2

- 問1 [11]: ④
- 問2 [12]: ①
- 問3 [13]: ②
- 問4 [14]: ③
- 問5 [15]: ④
- 問6 [16]: ①
- 問7 [17]: ④
- 問8 [18]: ②
- 問9 [19]: ②
- 問10 [20]: ③

問1: 五街道の名称

正解: ④ 日光

江戸幕府は、江戸の日本橋を起点とする5つの主要な陸上交通路を整備した。これを五街道と呼ぶ。

- 東海道(とうかいどう): 太平洋沿い、京都へ至る。
- 中山道(なかせんどう): 内陸山岳地帯、京都へ至る。
- 甲州道中(こうしゅうどうちゅう): 甲府へ至る。
- 日光道中(にっこうどうちゅう): 徳川家康を祀る日光東照宮へ至る。
- 奥州道中(おうしゅうどうちゅう): 白河(福島県)へ至り、東北方面へつながる。

問2: 宿場の中心施設

正解: ① 問屋場(といやば)

宿場(しゅくば)には、交通の円滑な運用のために様々な施設が置かれた。

- 問屋場: 宿場の中心的な役所。幕府の公用者などのために「人馬の継ぎ立て」(馬や人足を交代させて荷物を運ぶこと)の事務や、飛脚の管理などを行った。

- ・本陣・脇本陣：大名や幕府役人、門跡などの貴人が宿泊する格式の高い宿。
- ・旅籠（はたご）：一般の旅人が宿泊する、食事付きの宿。

問3：農村への労働負担

正解：② 助郷役（すけごうやく）

宿場には常時一定数の人馬が備えられていたが、大名の参勤交代などで交通量が増え、宿場の人馬だけでは足りなくなった場合、周辺の農村（助郷村）に対して人馬の提供が義務付けられた。これが助郷役である。農村にとっては、農繁期であっても駆り出される非常に重い負担となり、後の百姓一揆の原因の一つにもなった。

問4：海上航路の整備者

正解：③ 河村瑞賢（かわむらずいけん）

17世紀後半、幕府は東北地方からの年貢米（幕領米）を効率よく江戸や大坂へ運ぶ必要があった。

- ・河村瑞賢：1670年～71年に幕命を受け、航路を整備した商人。
- ・東廻り航路：東北の酒田・石巻から太平洋側を通して江戸へ至るルート。
- ・西廻り航路：酒田から日本海、下関（関門海峡）、瀬戸内海を通して大坂へ至るルート。

問5：17世紀後半の出来事

正解：④ 江戸城の本丸などが焼失した

「17世紀後半」とは、西暦でいうと1651年から1700年までの期間を指す。各選択肢の年代を整理すると以下の通りだ。

1. 紫衣事件（1629年）：17世紀前半。後水尾天皇と幕府の対立。
2. 禁中並公家諸法度（1615年）：17世紀前半。朝廷や公家を統制する法律。
3. 上米の制（1722年）：18世紀前半。徳川吉宗による享保の改革の一部。
4. 江戸城の本丸などの焼失（1657年）：17世紀後半。これは「明暦の大火（振袖火事）」を指しており、江戸の街の大半と江戸城天守閣・本丸が焼失した。

したがって、④が17世紀後半の出来事として合致する。

問6: 二十四組問屋の役割

正解: ①

江戸時代、大坂から江戸への商品輸送を円滑にするために結成された問屋組織についての問題だ。

- ① 正解: 二十四組問屋は大坂の問屋による連合組織である。江戸の問屋組織である「十組問屋(とくみといや)」と連携し、**菱垣廻船(ひがきかいせん)**に荷物を積み込んで江戸へ送った。
- ② 不正解: 江戸でつくられた組織は「十組問屋」である。
- ③ 不正解: 大坂から江戸への輸送は、日本列島の南側を通る航路(南海路)であり、東廻り航路(東北から太平洋を下るルート)ではない。
- ④ 不正解: 徳川吉宗はむしろ株仲間の結成を奨励した(享保の改革)。これらが解散させられたのは、後の天保の改革(水野忠邦による)の際である。

問7: 東海道の特徴

正解: ④

江戸時代の主要幹線である東海道の実態を問う問題だ。

- ① 不正解: 五街道を管理したのは「遠国奉行(おんごくぶぎょう)」ではなく、大目付と勘定奉行が兼務した**道中奉行(どうちゅうぶぎょう)**である。
- ② 不正解: 滑稽本『東海道中膝栗毛』を著したのは**十返舎一九(じっぺんしゃいつく)**である。鶴屋南北は『東海道四谷怪談』などで知られる歌舞伎狂言作者だ。
- ③ 不正解: 大井川は江戸の防衛上の理由から架橋や渡船が禁止されており、「川越し(かわごし)」という人足による徒渉(かちわたり)が行われていた。
- ④ 正解: 東海道は江戸の品川から京都の手前である大津まで、53の宿駅(東海道五十三次)が整備されていた。

問8: 参勤交代の制度化

正解: ② 1635年

参勤交代の義務化のタイミングを問う知識問題だ。

- 1635年、3代将軍徳川家光が**武家諸法度(寛永令)**を改定した際、大名に参勤交代を義務付けた。これにより、大名は1年おきに江戸と領地を往復し、妻子は江戸に住まわせることが制度として確立した。

問9:碓氷(うすい)関所の所在

正解:② 中山道

主要な関所がどの街道にあったかを問う問題だ。

- 中山道:碓氷関(群馬・長野県境)や福島関(長野県)が置かれた。
- 東海道:箱根関(神奈川県)や新居関(静岡県)が有名だ。
- 甲州道中:小仏関(東京都・神奈川県境)などが置かれた。

問10:西廻り航路の起点

正解:③ 酒田

河村瑞賢によって整備された西廻り航路の物流ルートを問う問題だ。

- 西廻り航路は、出羽国(山形県)の酒田を起点とする。日本海を北上・西進して下関(山口県)で折り返し、瀬戸内海を通して経済の中心地である大坂へ向かうルートだ。
- ① 仙台:東廻り航路の寄港地にはなるが、西廻り航路の起点ではない。
- ② 下関:西廻り航路の重要な中継地点(北前船の寄港地)である。
- ④ 長崎:海外貿易の窓口であり、この国内輸送ルートの起点とは関係がない。

大門3

問1:①

問2:②

問3:③

問4:④

問5:④

問6:①

問7:①

問8:③

問9:④

問10:③

問1:空欄[1](憲法のモデル・学問体系)

正解:① ドイツ

・詳細解説

明治十四年の政変(1881年)で大隈重信を追放した政府は、君主権の強いプロイセン(ドイツ)憲法を模範とすることを決定した。これに伴い、大学の教育内容も自由民権運動に影響を与えたイギリス流やフランス流から、ドイツ流の国家学・法学へと転換した。

・他の選択肢について

・② イギリス:議院内閣制を重んじる。自由民権派が手本としたが、当時の日本政府は「時期尚早」として退けた。

・③ アメリカ:共和制国家であり、天皇中心の国家を目指す当時の日本には不適當とされた。

・④ フランス:自由平等思想が強く、民権派に影響を与えたが、政府からは危険視されていた。

問2:空欄[2](法学の転換点)

正解:② 民法典論争

・詳細解説

フランス人ボアソナードが起草した旧民法に対し、「日本の伝統的な家族制度(戸主権)を破壊する」として、穂積八束らが「民法出でて忠孝亡ぶ」と激しく批判した論争である。この結果、旧民法は施行延期となり、ドイツ民法を参考にした新民法が作られた。

- 他の選択肢について

- ① 日本資本主義論争: 1930年代のマルクス主義学者の論争であり、時代が合わない。
- ③ 天皇機関説問題: 1935年に美濃部達吉の説が批判された事件であり、時代が異なる。
- ④ 母性保護論争: 大正時代、平塚らいてうと与謝野晶子らの間で行われた女性の自立や保護に関する論争である。

問3: 空欄[3] (実証史学の先駆者)

正解: ③ 久米邦武

- 詳細解説

ドイツの歴史学者リースの指導により、客観的な史料に基づいて歴史を記述する実証史学が確立された。久米邦武や重野安繹(しげの やすつぐ)がその代表格である。久米は後に『神道は祭天の古俗』という論文により筆禍事件に巻き込まれた。

- 他の選択肢について

- ① 西田幾多郎: 『善の研究』で知られる日本を代表する哲学者。
- ② 津田左右吉: 記紀(古事記・日本書紀)を批判的に研究した歴史学者だが、活躍は主に大正以降である。
- ④ 柳田国男: 日本の民俗学を創始した人物。

問4: 空欄[4] (細菌学の父)

正解: ④ コッホ

- 詳細解説

ドイツの医師・細菌学者であるコッホは、結核菌やコレラ菌を発見し、近代細菌学の基礎を築いた。北里柴三郎がドイツに留学して彼に師事し、破傷風の血清療法などを確立した。

- 他の選択肢について

- ① ケンペル: 江戸時代に来日したドイツ人医師。『日本誌』を執筆し、鎖国という言葉を広めた。
- ② ベルツ: 明治期のお雇い外国人医師。日本の医学教育に貢献し、温泉療法なども紹介した。
- ③ モース: アメリカの動物学者。大森貝塚を発見した。

問5: 空欄[5] (脚気の研究)

正解:④ ビタミンB1

• 詳細解説

鈴木梅太郎は、当時日本で蔓延していた脚気の予防研究の過程で、米ぬかの中に有効成分を発見し「オリザニン」と命名した。これが後のビタミンB1である。当時は医学界からの理解が得られず、ノーベル賞受賞の機会も逃したと言われる。

• 他の選択肢について

- ① ビタミンC: 欠乏すると壊血病になる。
- ② ビタミンD: 欠乏するとくる病(骨の異常)になる。
- ③ ビタミンA: 欠乏すると夜盲症(鳥目)になる。

問6: 明治十四年の政変と大隈重信の追放

正解:① 伊藤博文

• 詳細解説

1881年(明治14年)、開拓使官有物払下げ事件をきっかけに、早期の国会開設を主張する大隈重信と、時期尚早とする伊藤博文らに対立した。結果、伊藤は大隈を政府から追放し(明治十四年の政変)、同時に「10年後の国会開設」を公約した。

• 他の選択肢について

- ② 江藤新平: 1874年の佐賀の乱で処刑されており、政変当時は存命していない。
- ③ 五代友厚: 政商として払下げを受けようとした側(当事者)であり、大隈を追放した政府側の政治家ではない。
- ④ 大久保利通: 1878年に暗殺されており、政変当時は存命していない。

問7: 大日本帝国憲法の内容

正解:① 天皇は陸海軍の指揮権を持つ。

• 詳細解説

大日本帝国憲法では、天皇は大元帥として陸海軍を統帥する権限(統帥権)を持つと定められた。これは議会や内閣の制約を受けない天皇の大権の一つとされた。

• 他の選択肢について

- ② 内閣の各大臣は首相によって任命される: 憲法上、各大臣は天皇が任免することになっていた。首相に閣僚の任免権が明文化されたのは戦後の日本国憲法である。
- ③ 文武官僚は議会によって任免される: 文武官吏の任免権は天皇の大権に属していた。
- ④ 議会は貴族院と参議院によって構成される: 帝国議会は貴族院と衆議院の二院制である。「参議院」は日本国憲法下の名称である。

問8: 福沢諭吉の著作(適当でないもの)

正解: ③ 西国立志編

• 詳細解説

『西国立志編』は、サミュエル・スマイルズの『Self-Help』を中村正直が翻訳したもので、明治初期のベストセラーである。福沢諭吉の著作ではない。

• 他の選択肢について

- ① 文明論之概略: 1875年刊。西洋文明の摂取を説いた福沢の代表作。
- ② 西洋事情: 幕末から明治にかけての福沢の著作で、西洋の制度や文化を広く紹介した。
- ④ 学問のすゝめ: 1872年より刊行。「天は人の上に人を造らず…」の冒頭で有名な、福沢の最も著名な啓蒙書。

問9: 日本人初のノーベル賞受賞者

正解: ④ 湯川秀樹

• 詳細解説

1949年、物理学者の中間子理論の功績により、湯川秀樹が日本人として初めてノーベル物理学賞を受賞した。

• 他の選択肢について

- ① 江崎玲於奈: 1973年にノーベル物理学賞を受賞(トンネル効果の発見)。
- ② 利根川進: 1987年にノーベル生理学・医学賞を受賞(抗体の多様性の解明)。
- ③ 朝永振一郎: 1965年にノーベル物理学賞を受賞(量子電磁力学の功績)。

問10: 北里柴三郎が創設した研究所

正解: ③ 伝染病研究所

- 詳細解説

ドイツから帰国した北里柴三郎は、福沢諭吉の援助を受けて1892年に私立の伝染病研究所を創設した。後に内務省管轄となり、さらには東京帝国大学に附置されることになったが、北里はこれに反発して辞職し、北里研究所を自ら設立した。

- 他の選択肢について

- ① 理化学研究所: 1917年に創立された、物理学・化学等の研究機関。
- ② 原子力研究所: 戦後の1950年代に設立された組織。
- ④ 地震研究所: 1925年、関東大震災を契機に東京帝国大学に設置された。

大門4

- 問1:③ (日本自由党)
- 問2:③ (日ソ基本条約)
- 問3:① (金融恐慌の発生)
- 問4:② (立憲民政党)
- 問5:④ (満州事変の勃発)
- 問6:② (鳩山一郎)
- 問7:① (労働組合法の制定)
- 問8:③ (預金を封鎖して旧円の流通を禁止し、新円の引出しを制限した)
- 問9:② (満20歳以上の成人男女)
- 問10:④ (幣原喜重郎)

問1: 1946年4月の総選挙で第一党となった政党

正解: ③ 日本自由党

戦後初の総選挙(第22回衆議院議員総選挙)の結果、日本自由党が141議席を獲得して第1党となった。この結果を受け、幣原内閣は総辞職した。

- ① 日本進歩党: 旧町田忠治らの立憲民政党系を中心に結成された保守政党。選挙では第2党となった。
- ② 日本社会党: 戦前の無産政党が合流して結成された。この選挙では第3党にとどまったが、翌年の選挙で第1党となる。
- ④ 日本協同党: 協同組合主義を掲げた中間政党。農村部を基盤としたが、議席数は上位3党に及ばなかった。

問2: 下線部(a) 第1次加藤高明内閣時に締結された条約

正解: ③ 日ソ基本条約

1925年、外相・幣原喜重郎のもとでソ連との国交を樹立するために締結された。これにより、日本はソ連を正式に承認し、北樺太の利権などを確保した。

- ① 不戦条約：1928年(田中義一内閣)に締結。国際紛争解決の手段として戦争を放棄することを誓った条約。
- ② 四カ国条約：1921年(高橋是清内閣)のワシントン会議で調印。太平洋の諸島に関する現状維持を定めた。
- ④ ヴェルサイユ条約：1919年(原敬内閣)に調印された第一次世界大戦の講和条約。

問3: 下線部(b) 第1次若槻礼次郎内閣時に起きたできごと

正解: ① 金融恐慌の発生

1927年、片岡直温蔵相の「渡辺銀行が破綻した」という失言をきっかけに、預金者が銀行に殺到する金融恐慌が発生した。内閣は台湾銀行救済の緊急勅令を枢密院に否決され、退陣に追い込まれた。

- ② 昭和恐慌の発生：1930年(浜口雄幸内閣)の世界恐慌の波及と、金解禁によるデフレが重なって起きた深刻な不況。
- ③ 金輸出の解禁：1930年(浜口雄幸内閣)に井上準之助蔵相が断行した政策。
- ④ 金輸出の再禁止：1931年(犬養毅内閣)に高橋是清蔵相が断行。金本位制から離脱し、管理通貨制度へ移行した。

問4: 下線部(c) 浜口雄幸内閣の与党

正解: ② 立憲民政党

1927年、憲政会と政友本党が合同して結成された立憲民政党が与党であった。幣原喜重郎は民政党内閣において外相を務め、対英米協調と対中内政不干渉を掲げる「幣原外交」を展開した。

- ① 憲政会：加藤高明内閣や第1次若槻内閣の与党。民政党の前身の一つ。
- ③ 立憲政友会：民政党のライバルであった保守政党。田中義一内閣や犬養毅内閣などの与党。
- ④ 革新倶楽部：犬養毅らが率いた小政党。1925年に立憲政友会に合流している。

問5: 下線部(d) 第2次若槻礼次郎内閣時に起きたできごと

正解: ④ 満州事変の勃発

1931年9月、関東軍が柳条湖で満鉄線を爆破した(柳条湖事件)ことで満州事変が開始された。若槻内閣と幣原外相は「不拡大方針」を掲げたが、現地の軍の行動を抑えられず、政権放り出しにつながった。

- ① ニ・二六事件：1936年(岡田啓介内閣)に陸軍皇道派の青年将校らが起こしたクーデター未遂事件。
- ② 五・一五事件：1932年、海軍青年将校らが犬養毅首相を暗殺した事件。これにより政党内閣の時代が終焉した。
- ③ 盧溝橋事件：1937年(第1次近衛文麿内閣)に発生した、日中戦争のきっかけとなった事件。

問6: 下線部(e)に関連し、公職追放処分を受けた人物

正解: ② 鳩山一郎

1946年(昭和21年)の総選挙で日本自由党が第一党となり、総裁の鳩山一郎が次期首相に指名される直前、GHQは彼を公職追放処分とした。戦前の政友会幹部としての活動や、著書の内容が軍国主義的と見なされたためである。この結果、外相だった吉田茂が急遽後継総裁となり、第1次吉田内閣が発足した。

- ① 芦田均：戦後、民主党総裁として首相を務めた。公職追放は受けていない。
- ③ 池田勇人：大蔵官僚出身で、後に「所得倍增」を掲げた首相。公職追放の対象外であった。
- ④ 佐藤栄作：鉄道省出身の官僚から政治家へ。池田と同様、戦後の「吉田学校」門下生であり、追放は受けていない。

問7: 下線部(f)に関連し、1945年におこなわれた労働政策

正解: ① 労働組合法の制定

GHQが幣原首相に示した「五大改革指令」の一つ「労働組合の結成奨励」に基づき、1945年12月に制定された。労働者に団結権、団体交渉権、団体行動権(労働三権)を保障した画期的な法律である。

- ② 労働基準法の制定：1947年(片山哲内閣時)に制定。労働条件の最低基準を定めたもの。
- ③ 工場法の制定：1911年(明治44年)に制定。日本初の労働者保護法であるが、戦前の法律である。
- ④ 労働省の設置：1947年に設置された。1945年時点ではまだ存在しない。

問8: 下線部(g) 金融緊急措置令についての説明

正解:③ 預金を封鎖してそれまで使用されていた旧円の流通を禁止し、新円の引出しを制限した。

戦後の猛烈なインフレーションを抑制するため、1946年2月に実施された政策。強制的に預金を封鎖し(預金封鎖)、生活費などの最低限を除いて現金の引き出しを制限するとともに、新円切替を行って通貨流通量を減らそうとした。

- ・① 持株会社整理委員会...: 財閥解体に関する説明である。
- ・② 復興金融金庫...: 1947年に設立。傾斜生産方式に基づき、石炭や鉄鋼などの基幹産業に重点的に資金を供給した組織の説明。
- ・④ 赤字を許さない予算...: 1949年の「ドッジ・ライン」に関する説明。1ドル＝360円の固定レート設定もこれに含まれる。

問9: 下線部(h) 1946年総選挙における選挙権

正解:② 満20歳以上の成人男女

1945年12月の衆議院議員選挙法改正により、日本の歴史上で初めて女性参政権が認められた。同時に選挙権の年齢も引き下げられた。

- ・① 満18歳以上の成人男女: 2015年の法改正(2016年施行)によって実現した現代の制度である。
- ・③ 満20歳以上の成人男子: 1925年の普通選挙法制定(加藤高明内閣)から戦前までの制度。
- ・④ 満25歳以上の成人男子: 1889年の衆議院議員選挙法(納税15円以上)から1925年改正前までの年齢制限。

問10: この問題文の人物(幣原喜重郎)

正解:④ 幣原喜重郎

リード文の全てのヒントが彼を指している。

1. 外交官出身: 駐米大使などを歴任。
 2. 幣原外交: 1920年代、加藤高明・若槻・浜口の各内閣で外相を務め、対英米協調・中国内政不干渉を貫いた。
 3. 戦後の首相: 東久邇宮内閣の後を受け、1945年10月に就任。五大改革指令の受諾や日本国憲法草案の作成にあたった。
- ・① 片山哲: 日本社会党委員長。1947年に連立内閣を組んだ初の社会党首相。

- ② 吉田茂：幣原の後の首相。サンフランシスコ平和条約などを締結した。幣原と同じく外交官出身。
- ③ 石橋湛山：戦後、大蔵大臣や首相を務めた。「小日本主義」を唱えた論客・政治家。